

科目名	建築構造計画	英語科目名	Structural Planning
開講年度・学期	開講せず	対象学科・専攻・学年	建築学科5年
授業形態	講義＋演習	必修 or 選択	選択
単位数	2単位	単位種類	学修単位 15+30h
担当教員	横内 基	居室(もしくは所属)	建築学科棟3階
電話	0285-20-2837	E-mail	yokouchi@oyama-c.t.ac.jp
授業の到達目標	授業到達目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育到達目標(JABEE)	JABEE 基準
①構造計画を行う上で留意すべきポイントを説明できる。	④	BO	d-1、d-3
②幾つかのモデルプランについて、適切な構造計画を考えることができる。	②	B	d-3、h、i
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標①～②: 中間試験, 定期試験, および必要に応じて出題した課題によって評価する。			
評価方法			
達成目標①～②: 中間試験および期末試験による点数(平均)を 70%, 小テストや課題などを 30%で評価する。			
授業内容	授業内容に対する自学自習項目	自学自習時間	
1. 構造計画の意義と位置づけ	構造計画の意義と位置づけの明確化	4	
2. 法規の制約、耐震基準	日本における耐震関連規定の把握	4	
3. 設計荷重	設計用外力の内容を把握	4	
4. 敷地・地盤・基礎	敷地・地盤・基礎に関する用語の把握	4	
5. ブロック・平面・断面計画	各架構形式の特徴を復習	4	
6. 構造部材の設計	各種構造の部材設計方法を復習	4	
7. 耐震診断と耐震補強	各種耐震補強方法を調査	4	
8. 意匠、設備、施工と構造計画	意匠、設備、施工と構造計画との関係を調査	4	
9. 定期試験	構造計画を行う上で留意すべきポイントの総復習	4	
10. 構造計画の実践(課題説明・予備調査)	現地調査項目の整理	4	
11. 構造計画の実践(現地調査の実施)	現地調査データの整理・分析 現地要再調査項目の洗い出し	4	
12. 構造計画の実践(現地調査の実施)	現地調査データの整理・分析	4	
13. 構造計画の実践(構造計画の検討)	構造計画の検討 レポート、プレゼンテーションの作成	4	
14. 構造計画の実践(構造計画の検討)	構造計画の検討 レポート、プレゼンテーションの作成	4	
15. 構造計画の実践(プレゼンテーション)	構造計画の検討 レポート、プレゼンテーションの作成	4	
1. 構造計画の意義と位置づけ	構造計画の意義と位置づけの明確化	4	
自学自習時間合計			60
キーワード	企画、設計、用途、建築法規、構造システム、設備計画、コスト、施工、構造デザイン		
教科書	金箱温春: 構造計画の原理と実践、建築技術		
参考書	1. 彰国社編「建築構造計画チェックリスト」、彰国社 2. 寺本隆幸「建築学入門シリーズ 建築構造の計画」、森北出版		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	鉄筋コンクリート構造、鋼構造		
現学年の関連科目	木構造、建築法規、建築耐震構造、建築施工		
次年度以降の関連科目			
連絡事項			
1. 建築の計画、設計、構造および設備など、各授業科目で学んだことを関連づけ、周辺知識を補強する科目である。 また、建築実務に役立つ知識を習得することに主眼をおいている。			
2. 実際の建築設計を実施する流れに沿って、構造計画の方法を理解すること。			
3. 予習・復習を確実に行わなければ、目標達成(=単位取得)は無理である。			
シラバス作成年月日	平成 26 年 2 月 28 日		